

いずみの園そのだより

vol. 77
クリスマス号
2019.12.13



信望愛 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大なるものは愛である。 コリントの信徒への手紙 113:13

基本理念
神と人とに仕えるキリスト教の愛と奉仕の精神を基本理念とする
①アメニティ(快適主義) ②ヒューマニティ(人間主義) ③ローカリティ(地域主義)



人生100年時代



社会福祉法人九州キリスト教
社会福祉事業団 理事長
中津総合ケアセンター
いずみの園 総務施設長

富永健司

厚労省によると2018年の日本人の平均寿命は男性81・25歳、女性は87・32歳になりました。1947(昭和22)年は男性50・06歳、女性53・96歳ですから戦後70年でほぼ30歳の長寿化が進み、日本は世界でも有数の長寿国となりました。2017年、英国の研究(ライフシフト100年時代の人生戦略)によると、2007年に日本で生まれた子どもの半数が100歳を超えるると推計し世界の注目を集めました。政府は2017年9月、安倍首相を議長として「人生100年時代構想会議」を設置、超長寿社会における経済・社会システムに関する議論が始まっています。100歳が現実味のある時代となりました。

最近、「99歳、母と暮らせば」というドキュメンタリー映画を見ました。71歳の次男と暮らす主人公は多少の認知症はありますが、息子と軽妙な会話を交わしお茶目で天真爛漫。我がままで時々、下の失敗もありますが、公民館で得意のハーモニカを演奏するのが楽しみです。ヘルパーやデイサービスを利用しながら、次男の優しい介護と地域の皆さんの見守りが主人公を支えていました。実は私の母もこの11月、100歳を迎えました。父の死後、10年独居生活を続けていましたが、認知症や入退院が重なり90歳の時、いずみの園に入所しました。特養の介護システムと介護員の温かいケアで、家族も驚く100歳が実現しました。超高齢社会、安心して暮らせる、安心して100歳を迎えられる社会が求められています。

いつまでもお元気で!

いずみの園ご利用者が100歳の誕生日を迎えられました。



奥塚市長にもご来園いただきました

「特別養護老人ホームいずみの園」は入居者定員100名、ショートステイのご利用者を含めると、毎日約120名の方が生活されています。現在、特養には100歳を超えられた方が6名おり、今年度は3名の方が100歳になられました。入居中の方の中で最高齢は106歳で、今でも元気で、身の回りのことは出来る範囲でご自身でなさっています。11月25日(月)には、ヨハネ館に入居されている「富永ツル様」が100歳の誕生日を迎えられました。当日はご家族をはじめ、奥塚中津市長もお祝いに駆けつけてくださいました。多くの方に囲まれ、楽しく、幸せな100歳の誕生日を迎えていただくことができました。



中津市より賞状をいただきました

(特別養護老人ホームいずみの園)

「特別養護老人ホームいずみの園」では、入居者の方はもちろん、そのご家族や関わる全ての方に幸せになっていただくようなケアを目指し、日々業務に取り組んでおります。これからもいずみの園がより一層地域の中で愛される施設となるよう、職員一同努めます。

いずみの森入居者が地域の短文学大会で大会賞を受賞しました



受賞された雨宮様

「小春日や主治医と交はす俳句論」この句は、作者であるいずみの森入居者の雨宮恵二様と、その主治医とのやり取りを句にしたためたものです。雨宮様の息子くらの若い医師ですが、「人間のにも幅のある方で、俳句などにも関心、興味を持っておられます。月1回の受診の時間も先生との『ダベリング』の時となることが多いです。正に『小春日』をもたらして下さるお医者さんです。」とおっしゃっておられました。



いずみの森の建物風景

(シニアレジデンスいずみの森)

「シニアレジデンスいずみの森」は、全国的にも珍しい全棟二戸建ての有料老人ホームです。利用される方は中津市内や大分県内だけでなく遠方からも来られ、緑に囲まれた自然豊かな環境で、安心して安全にお過ごしいただけます。見学は随時受け付けておりますので、興味がある方は是非一度見学に来て見てください。

「小春日や主治医と交はす俳句論」

中津市社会福祉協議会主催「みんなのふくしまつり」に参加しました。



輪投げコーナーにて

10月27日(日)に「第11回みんなのふくしまつり」が中津市教育福祉センターで開催されました。当日は天候にも恵まれ、秋晴れの中、多くの家族連れの参加がありました。「中津市障がい者等基幹相談支援センター」では、屋台コーナーとして子どもさん向けに輪投げゲームとドリンクを販売しました。輪投げゲームではたくさんの子どもの参加があり、景品のお菓子を取るため、投げる場所を親子で一緒に考えながら楽しまれていました。親子で楽しまれていた姿は微笑ましく、参加した子どもさんより「楽しかった」との感想もいただきました。今後「中津市障がい者等基幹相談支援センター」では地域福祉の行事等に参加させていただき、地域の皆様との交流を深めていきたいと思っております。



職員育成に関する取り組み 「次世代職員育成講座」について



法人本部事務局長
総務部 部長 堂本 高雄

「中津総合ケアセンターいずみの園」では、2017年より「次世代職員育成講座」を企画・開催しております。こちらの講座はいずみの園の次世代のリーダーを育成すべくスタートさせたもので、今年で3年目の取り組みとなります。勤務上の都合などを考慮し各事業所より参加者を出していただき、現在は12名の方が対象となっております。

今年度の第1回目は11月19日（火）13時30分～15時30分、ミーティングルームにて開催しました。今回は株式会社フェイス 相良亜寿香氏が講師を務め「職場での話し方・伝え方」について研修が行われました。研修では、基本的な発声練習や鏡を用いて顔の表情の確認をするなど、自分を見つめ直す大変有意義な時間となりました。

いずみの園では他にも管理職を対象とした「中間管理職講座」や、職員全体を対象とする各種研修を多く実施しており、職員のスキル向上や定着に向けた機会を、継続的に提供していきます。



講師の相良亜寿香氏



講座の様子

「認知症サポーター養成講座」 が行われました。



在宅サービス事業部
部長 伊藤 保幸

中津商工会議所主催の「第6回地域で支える認知症サポーター養成講座」が開催されました。今回は初めに認知症という病気についての概要を説明し、その後「99歳 母と暮らせば」という、認知症高齢者との生活について描いたドキュメンタリー映画を上映いたしました。暗くない、とても楽しい映画で、参加された方からの評判も上々だったようです。受講された方には、地域の中で認知症の方をさりげなく見守る「認知症サポーター」の証である「オレンジリング」をお渡ししました。

現在中津市では概ね4人に1人が高齢者で、高齢化率の上昇に伴い、認知症などの高齢期特有の疾病に罹る方の数も相対的に増加しています。特に認知症は、周りにいる人のサポートが不可欠です。一人でも多くの方に認知症という病気を知っていただき、中津市が誰にとっても住みやすいまちになることを願って、これからも活動していきます。



当日の様子

いずみの園の防災への取り組み



ケアマンション聖愛ホーム
課長 橋田 要介

いずみの園では、毎年火災が発生しやすくなる11月に、中津市消防本部立会いのもと総合防災訓練を実施しており、今年も11月20日（水）に行いました。

今回は50名が入居する、4階建ての聖愛ホームから夜間出火したことを想定して、訓練を実施しました。実際に火災が発生し感知器が作動すると、中津市消防本部から約6分で消防隊が到着します。しかし、それまでにいかに素早く火災の脅威、特に煙から身を守るかが重要となってきます。今回の訓練では、火災警報が作動した直後からの、特別養護老人ホームの夜勤職員やヘルパー、ステーション職員との連携や、入居者の皆様が迅速に避難誘導するための手順を確認することができました。

訓練終了後には、中津市消防本部の方から「避難訓練を繰り返しながら、その内容を継続して見直すことが大切です。」とのアドバイスを頂きました。

いづみの園では、いざという時、常日頃いかに備えていたかが問われます。そのことを肝に銘じ、これからもいずみの園防災委員会を中心に、利用者様、入居者様が安心・安全に過ごせるよう、防災に取り組んでまいります。



避難誘導完了後の様子



避難誘導中の様子

本年も多くの方に
お越しいただきました

たくさんのボランティアの
皆様に支えられました



毎年人気の
餅つきコーナー



創立記念感謝祭

第21回いずみの園フェスタに ご来場ありがとうございました。

10月26日(土) 10:00から「創立記念感謝祭 第21回いずみの園フェスタ」が「いずみの園」の敷地内で行われました。好天に恵まれ、当日は4,000人に迫るお客様にご来場いただきました。「地域に感謝」「地域への恩返し」の気持ちで始めたこのイベントが、かくも盛大に21回の節目を迎えられたことを嬉しく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

(いずみの園フェスタ実行委員会)

ステージコーナー
(琉球國祭り太鼓)



今年も大盛況の
バザーコーナー



くじ引きが
子どもたちに大人気でした



地域の輪 お祭り

10月から12月にかけて、先の紙面にてお伝えした「いずみの園フェスタ」、「みんなのふくしまつり」も含めて多くの地域行事に参加しました。また今年から「かきぜdeキッチン」「かきぜde地域の輪」という新しい取り組みもスタートし、いずみの園をより地域の方に知っていただける良い機会となりました。

このページではそれぞれのイベントの様子を写真と共に振り返ります。

— 各種イベント参加・開催報告 —

かきぜ de キッチン

毎月第3土曜



第4回の際の
キーマカレー



食事の様子

第1回 楽市まつり

10/20日

神楽の鬼も
一緒に餅を
つきました



会場の様子

しめ縄作り
体験コーナー



かきぜ de 地域の輪

12/1日

飛び入り
参加の
餅つき体験



中津駅 元気まつり

10/6日

ワークショップの
様子



多くの方にご来場いただきました

約300名の方にご来場いただきました

職員さんに聞いてみよう!

理学療法士

ちゃん聞いてみた!!



特別養護老人ホームリハビリ課
課長 高倉 哲也

第二話 「ノーリフト」 不良姿勢と良姿勢について

今回は、ノーリフト第二話ということで、標題の内容で進めていきたいと思えます。前回の内容を復習しつつ...と言いたいところではありますが、原稿の制限がありますので、早速本題に入りましょう(前回内容を忘れた方は、いずみの園たより76号を参照ください)。

腰痛予防指針にて求められている「職場における腰痛予防対策(ノーリフト)の管理体制の整備」には、対象職種を「介護職」に限っているわけではありませんが、多くの方が介護腰痛というイメージですが、二足歩行する人類の身体構造的には、誰もが何かしらの要因で腰痛を引き起こします。実際、直接介護を行わない事務職など、非介護職の職員からも「腰が痛い!」という相談を受けます。そこで今回のポイント①「ノーリフトの対象は全職種・全職員である!」ことを覚えていただきたいと思います。腰痛発生に影響を与える要因はいくつかありますが、「姿勢・環境」に照準を絞って紹介させていただきます。

作業を行う上で厚労省から示されている指針にて指摘されている不良姿勢があり、それらを以下に示します。今回のポイント②不良姿勢とは「長時間の同一姿勢(拘束姿勢)及び不自然な姿勢」とまとめられており、以下のイ〜ニが挙げられます。

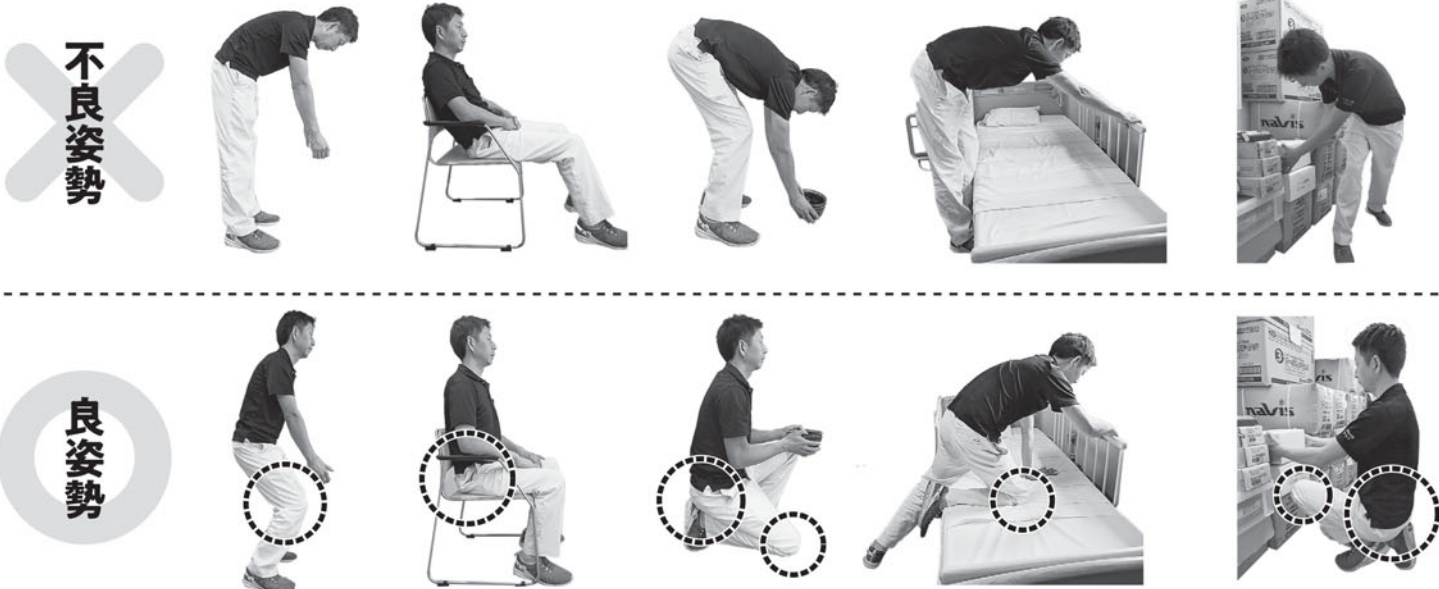
- イ. 立ちっぱなし
- ロ. 座りっぱなし
- ハ. 前屈(お辞儀姿勢)
- ニ. ひねり及び後屈ねん転(うつちやり姿勢)

...と、枠内の様に記述されているわけですが、百聞は一見に如かず。どのような姿勢が悪くて、どのような姿勢が良しとされているのかを写真に示しましたので、そちらをご覧ください。

見比べてみてお分かりいただけたでしょうか?不良姿勢に対して良姿勢では、体幹、とくに腰部の前屈や回旋を極力伴わないように下肢(股・膝関節)で代償しています。ノーリフト関係の研修会でよく使われる話で、「不良姿勢をどのくらいとったら腰痛の要因となるか?」という問題があります。答えは「5秒以上」と定められています。たった5秒間です。皆様、不良姿勢を避け良姿勢だけで業務を遂行させる自信がありますでしょうか?

自分に当てはまる方、身近で目の当たりにした経験がある方が多いのではないのでしょうか?ノーリフトにおける具体的対応手段として、数々の対応策があります。ボディメカニクスやボディコントロール、ボディメンテナンス、福祉用具ケア、業務環境改善等。詳細については次回以降でお伝えしますが、重要なことは自分の業務における不良姿勢ポイントのアセスメント(評価)が出来るようになることだと考えます。課題抽出が出来て初めて解決策の検討に繋がります。皆様、この記事を読んで以降、是非とも自分の業務姿勢評価に努めていただいて、自分で改善できる部分から業務改善に励まれてみてください。

さて、今回は今回の内容でも若干触れさせていた「ノーリフトの具体的対応手段ノーリフティングケア」についてお伝えしようと思えます。



介護男子

vol.7

ここでは、いずみの園で働く男性職員を紹介します。彼らの働きぶりを通して、いずみの園の内側を少しでも知っていただければ幸いです。



山本 慎也さん

部署名：特別養護老人ホーム 介護員
年齢：19歳
好きな食べ物：サバの煮付け



介護男子
ナンバー 18



ひとこと

まだまだ未熟ですが、ご利用者に寄り添いながら頑張りたいです。



内納 大佑さん

部署名：特別養護老人ホーム 介護員
年齢：28歳
好きな食べ物：シチュー

ひとこと

ご利用者に笑顔と元気を届けられるように毎日頑張ります。



阿南 聡馬さん

部署名：特別養護老人ホーム 介護員
年齢：22歳
好きな食べ物：おにぎり



ひとこと

ご利用者に笑顔で「過」ごして「頂」けるような、介護が出来るように頑張っていきたいと思えます。



編集後記

冬もすっかり深まり、寒い日が続いております。いずみの園では本号で既報を通り、いずみの園フェスタをはじめとする多くの地域行事を開催し、また参加しました。いずみの園が地域の中で今より更に広く知られることとなり、またひとつ、私たちが標榜する「福祉のまちづくり」の実現に向けて一歩を進めることができました。

寒い冬は、温かい太陽の日差しがとても貴重で、冬に訪れるたまの快晴は、温かな日差しと共に気分もとても穏やかになります。いずみの園のはたらきが、地域を照らす「愛すべき日の光」となるよう、今後とも努めてまいります。(義)

冬日可愛(とうじつあひ、とうじつあひすべし)

私たちがつくりました!



人事関係

2019年8月1日以降

① 新規採用職員

- 8月18日付 角谷まり子 いずみの丘グループホームハレルヤ 夜間支援員
- 9月16日付 谷口 忍 寄り合いセンターいずみ 介護員
- 10月29日付 末廣 絹子 聖愛ホーム 調理員
- 11月1日付 武藤 広志 いずみの森 夜警
- 11月7日付 木村 三恵 訪問介護課 非常勤ヘルパー

② 異動職員

- 8月1日付 橋内 尉至 ふれあい館・ベテルハウス兼務 介護員
- 10月1日付 山中 順子 かきゼグループホーム 介護員

(以上2019年12月1日まで)





アドベントクランツ

いずみの園のクリスマス

We wish you a Merry Christmas, And a Happy New Year !!



キリスト教を母体として設立したいずみの園では、毎年クリスマスを盛大にお祝いします。園内の各事業所では、それが工夫を凝らしたクリスマス飾りが取り付けられ、クリスマスの雰囲気を感じ上げます。

11月22日(金)には、宇佐教会の前牧師であった小西美智子先生をお招きし、簡単なアドベントクランツの作り方を教えていただき、クリスマスのメッセージを聞く時間を持ちました。クリスマスが近づくと、中津教会より「クリスマスキャロル」の奉仕にお越しいただきます。キャロルとは、宗教的な礼拝の中で歌われ、現在では通常、祝歌、頌歌(しようか)と訳される賛美歌の一種と考えられています。欧米には子どもたちが、街の家々を訪ねて、クリスマスキャロルをうたう慣習があり、これを「キャロリング」と言います。今年も園内の事業所を周り、施設に歌のプレゼントを届けていただく予定です。

また、「特別養護老人ホームいずみの園」では、「ご利用者、職員全員でクリスマス祝会を開催します。華やかな飾り付けが施された会場に、中央ステージでは職員による出し物が披露され、またケーキやたぐさんの料理をふるまい、皆でクリスマスをお祝します。

本年は、新たにグループホーム事業がスタートし、またかぎせの地での新たなイベントも開始しました。様々な取り組みを行う中で、それらの働きが神に守られ、滞りなく進んだことを感謝いたします。この紙面を手にとって読んでくださった全ての方の幸せを、心よりお祈りいたします。1年間お世話になりました。来年もよろしくお願いたします。

(中津総合ケアセンターいずみの園)



昨年の特養クリスマス祝会



昨年のキャロル奉仕の様子

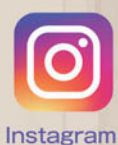


小西先生による会の様子



◆ #いずみの園photo ◆

いずみの園で2019年に「Facebook」「Instagram」に掲載した写真を紹介していきます。



!CHECK! !

FacebookやInstagramの「いいね」「フォロー」お待ちしております！
スマートフォンの方は左記のQRコードから読み込ませてください！